

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業		
事業名	演劇コミュニケーション事業 ①団体のためのコミュニケーションWS ②指導者のためのコミュニケーションWS			
目的・内容	演劇の手法を取り入れたワークショップを通じ、団体活動及びその指導者に必要な“コミュニケーション”について考え、団体（組織）の活性化に繋げる。これまでは演劇活動者（団体）を対象とした、スキルアップのための専門的なワークショップであったが、今回はその対象を文化活動団体（者）以外にも広げ、より社会的な事業として実施する。 【使命】多彩な人材育成とキャリア開発、文化人口の拡大とレベルアップ 【事業の柱】鳥取県内外の人材を活用した事業			
開催日	①団体のためのコミュニケーションワークショップ 平成25年2月2日（土）、3日（日） 講師：黒田 百合（劇団夢宇人主宰・演出家） ②指導者のためのコミュニケーションワークショップ 平成25年2月17日（日） 講師：西垣 耕造（俳優・東京演劇集団風所屬）			
会場	とりぎん文化会館 リハーサル室			
参加費	無料			
実施状況	参加者数 41人（①団体WS13人 ②指導者WS28人）[参加者率82%/募集人数50人（①団体WS30人 ②指導者WS20人）]			
事業費状況	予算額	収入 0円	支出 2,018,000円	収支比率 ー
	決算額	収入 0円	支出 1,203,131円	収支比率 ー
参加者アンケート（主なもの）	回収率100% 満足度100% ・ワークショップの理論・実践の両方が学べて良かったです。県内で学べる機会は非常に少ないので、これからは是非是非企画してください。よろしくお願いします。（団体WS） ・「表現力アップ」を個人的な技術のようにとらえていましたが、今回のWSを受けて、集団の中から気づく（築く）表現があること、集団（個と他者）のコミュニケーションから表現が生まれるものだなと思いました。発想の転換ですね！ありがとうございました。（指導者WS）			
1次評価（内部）	[成果] ・これまでは演劇活動者を対象とした専門的なワークショップを開催していたが、今年度はその対象を広げ、“コミュニケーション”に重点を置いた内容とした。そのため、幅広い文化活動団体や一般企業の方等、これまでに無いジャンルの方々に参加していただくことができた。 ・これまで「演劇」や「財団」との接点が少なかった方々に参加いただいたことで、「演劇」の持つ力や財団の取り組みを知っていただく機会を作ることができた。 ※参加団体、指導者のジャンル 市民オペラ団体、障害者アートフェスティバル委員会、一般企業、ダンス教室、高校演劇部、教員、コーラスグループ [課題等] ・対象を広げたことは良かったが、その反面、内容・狙いがやや不明瞭になってしまった。“子どもと関わる人のための”等、具体的なターゲットを設定した方がより効果的であると感じた。今回は初の試みで実験的なものであったが、参加者アンケートからも「演劇の手法」を用いたワークショップはとても有効なものであることが分かったので、趣旨・対象等を明確にし、多くの人が参加しやすいものにならなければならない。			
2次評価（財団評議員）	[成果] ・演劇のWSは、表現力や伝達力の向上を図るものが多く、それは社会においても必要とされることであり、その内容を広く一般団体に学んでもらおうとする企画は、文化事業で培ったものを地域に還元する意味で良い取り組みであった。参加者の満足度も高く、講師選定や内容については申し分ない。 [課題等] ・対象を一般に広げた事そのものは良いのだが、募集対象が広がったためにターゲットがぼやけてしまったのは反省点だろう。チラシを見ても「自分達を対象にしたものかどうか判断しにくい」というのが団体の思いではないか。例えば「弦楽器ワークショップ」として、弦楽器活動者は誰でもどうぞ、というよりも「エレキギター超テクニックワークショップ」、「三味線演奏ワークショップ」などのほうが、それぞれの活動団体が食いつきやすくなる。WSではニーズを把握し、ターゲットを絞った展開が求められる。ちなみに24年度に私が企画した県演連の声優WSは募集定員の2倍近い応募があり、参加者の9割は文化活動者でない一般県民だった。ちょっとビックリ。ニーズに応えるWSであれば参加者もあり、成果が上がるという認識を新たにしたい。			
今後の対応、取組状況	・「コミュニケーション」という、日常不可欠なものであり、それをワークショップの目的とするためには、誰をターゲットにしたものなのかを明確にして企画する必要がある。それが、講師のプログラミングにも大きく影響する。 ・参加者は多くなかったが、演劇の持つ社会的役割、財団の新たな取り組みに対する社会のニーズが垣間見れるものであった。今後、普及していくためのプランニングや手法について検討していく。			